

COIL 型授業実践紹介

Vol. 13

Nanzan University
Course : 演習 II
Teacher : 宮原 佳昭
Faculty : 外国語学部 アジア学科

Year・Quarter 2021 年度・第 3 クォーター

Partner Institution Queens College, the City University of New York

Course Name Conflict and Cooperation in Asia

Teacher Muhammad Kabir

COIL Category Academic COIL

Enrollment Nanzan 10, Queens College 25

Language English

Tech Tools Google ドライブ、WhatsApp

Project's Outline

Kabir 先生と協議を重ね、東アジア国際関係に関する 5 つのテーマ（ウイグル族問題、台湾問題、南シナ海問題、アメリカ同盟ネットワーク問題、アジア安全保障問題）と各テーマに関する問いかけ設定し、両学の学生を 5 つのグループに分け、それぞれのグループで討論およびレポート作成に取り組ませた。交流は非同期型（メール・チャットなど）とした。

Evaluation

COIL 型授業の授業参加度 40%（残りの 60%は、COIL 型授業とは別に実施するディベートおよび期末レポート）

Teacher's Comment (Nanzan)

今年度も Kabir 先生と事前に授業内容や進め方を協議するなど、協力的な関係を築くことができた。また、昨年度の取り組みを踏まえ、今年度はゼミ生一同に対して、COIL 型授業の内容や取り組み方を事前に指導したため、ゼミ生一同は終始高いモチベーションで授業に取り組んだ。

ゼミ生 10 名に実施後アンケートをとったところ、次のような回答であった。「問 1 COIL 全体に関する感想は？」→とてもよかった：2 名、よかった：3 名、どちらともいえない：4 名、あまりよくなかった：1 名、よくなかった：0 名。「問 2 東アジア国際政治に関する学びが得られたか？」→大いに得られた：2 名、得られた：8 名。「問 3 グループワーク・協

働（ひろく社会経験として）に関する学びが得られたか？」→大いに得られた：2名、得られた：6名、どちらともいえない：1名、あまり得られなかった：1名。

ゼミ生のコメントを分析すると、「アメリカ人学生の考え方を知ることができてよかった」「日本とアメリカの世論を比較することができ、視野が広がった」など東アジアの国際政治に関する学びが大いに得られた一方で、「こちらから連絡しても、アメリカ人学生側の反応が遅く、締切までにレポートが完成できるか心配した」「作業を分担していたアメリカ人学生が急にいなくなり、作業が滞った」などの点での不満が多かったことがうかがえる。一方で、「物事への積極性がグループワークにおいても、自分においても非常に大切だと学んだ。」「コミュニケーションをとる際に自分から積極的に話しかけることが重要であると学んだ」「時差もあり全く違う環境の相手と、メッセージだけのやりとりでワークを完遂する良い経験になった」と、グループワーク・協働に関する学びを得た学生も多かった。

担当教員としては、COIL型授業の意義は大きいと考える。すなわち、東アジア国際関係について、またグループワーク・協働について、通常型の授業では得られない大きな学びを学生にもたらす貴重な機会であるため、今後もぜひ継続実施したい。